

株式会社 iMed Technologies

脳血管内手術の安全性を向上させる手術支援 AI

当社は脳梗塞やくも膜下出血などに対する脳血管内手術（カテーテル手術）を支援する手術支援 AI（医療機器）を開発するため、2019年4月に創業した。

代表の河野は脳血管内手術医師として16年間この手術を行ってきた。この手術は4つの画面を見ながら行われる。同時に複数の部位に注意を払う必要があるため、手術中の見落としで死亡につながる事故が起きている。代表の河野自身も手術現場で危ない体験をしており、他の医師が同様の経験をした場面も目している。

この課題を解決するため、複数の病院と提携し、100万枚の手術画像を用いて、ディープラーニングによる開発を行っている。累計約2.5億円の資金調達を行い、スタートアップとしてNVIDIA、Microsoft、東大IPC、IPAS（特許庁）などから支援を受けながら、2022年後半の販売に向けてフルコミットメンバー7名で製品開発を進めている。



氏名 河野健一
Kenichi Kono
所属 株式会社 iMed Technologies
役職 代表取締役 CEO

医師（脳血管内治療指導医、脳神経外科専門医）。東京大学理学部数学科卒、京都大学医学部卒、グロービス経営大学院卒（MBA）。16年間の病院勤務で脳梗塞やくも膜下出血などの手術を経験した後、現場の課題を解決するために起業し、手術支援 AI を開発中。世界に安全と安心の手術を届けることを目指している。

2019年4月に起業し、脳梗塞やくも膜下出血などに対する脳血管内手術（カテーテル手術）を支援する手術支援 AI の開発を行っている。それにより、患者さんを救い、世界に安全と安心の手術を届けることを目指している。

代表の河野が脳神経外科医師であり、現場を長年経験し、今でも現場からの距離が近く、人的ネットワークも強みである。現在ではフルコミットメンバーが7名と増え、研究開発に邁進している。

まず、国内から製品を出し、US や EU などの海外に展開していくことを目指している。

